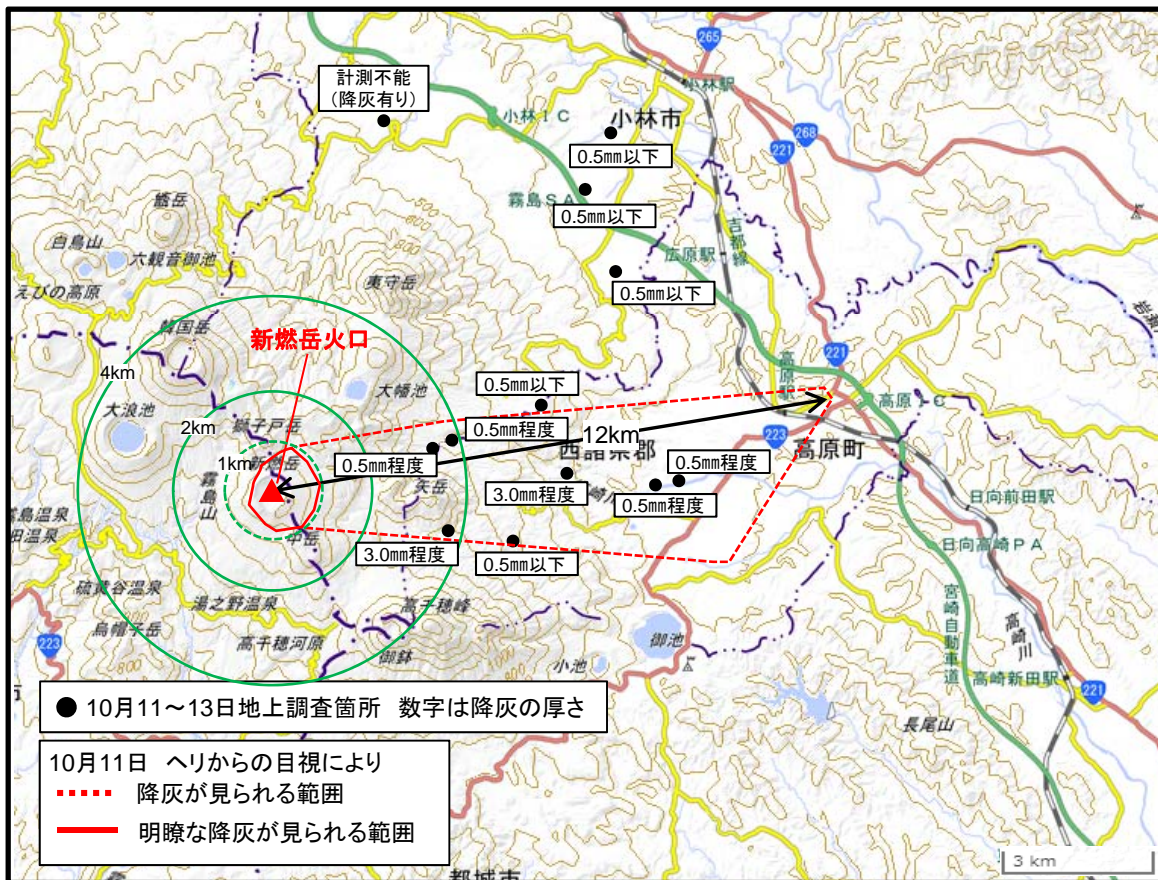


平成29年10月霧島山(新燃岳)噴火に伴う対応

平成29年10月13日時点

- 霧島山(新燃岳)で10月11日05時34分頃噴火が発生し、同日11時05分に噴火警戒レベルが2から3へ引き上げられた。
- 霧島山周辺の降灰状況を把握するため、九州地方整備局がヘリによる上空からの調査(10月11日)及び地上からの現地調査(10月11日~13日)を実施。
- 火口付近に火山灰の堆積が認められたものの、山麓に厚い火山灰の堆積は見られず、降灰の影響によって土石流発生の危険性が高まってはいないことが確認された。
- 10月11日、国交省から高原町長にヘリ画像を提供し、噴火状況を報告。



九州地方整備局ヘリからの降灰調査状況



地上からの現地調査状況

10月11日新燃岳へり調査結果(火山灰堆積範囲)

はるかぜ号による上空調査の結果、灰白色の噴煙が火口から東方向に流れている様子が確認でき、火口から東側1km以内で明瞭な降灰が確認できた。また、火口から東方向に高原町市街地部でも降灰が確認できた。



①



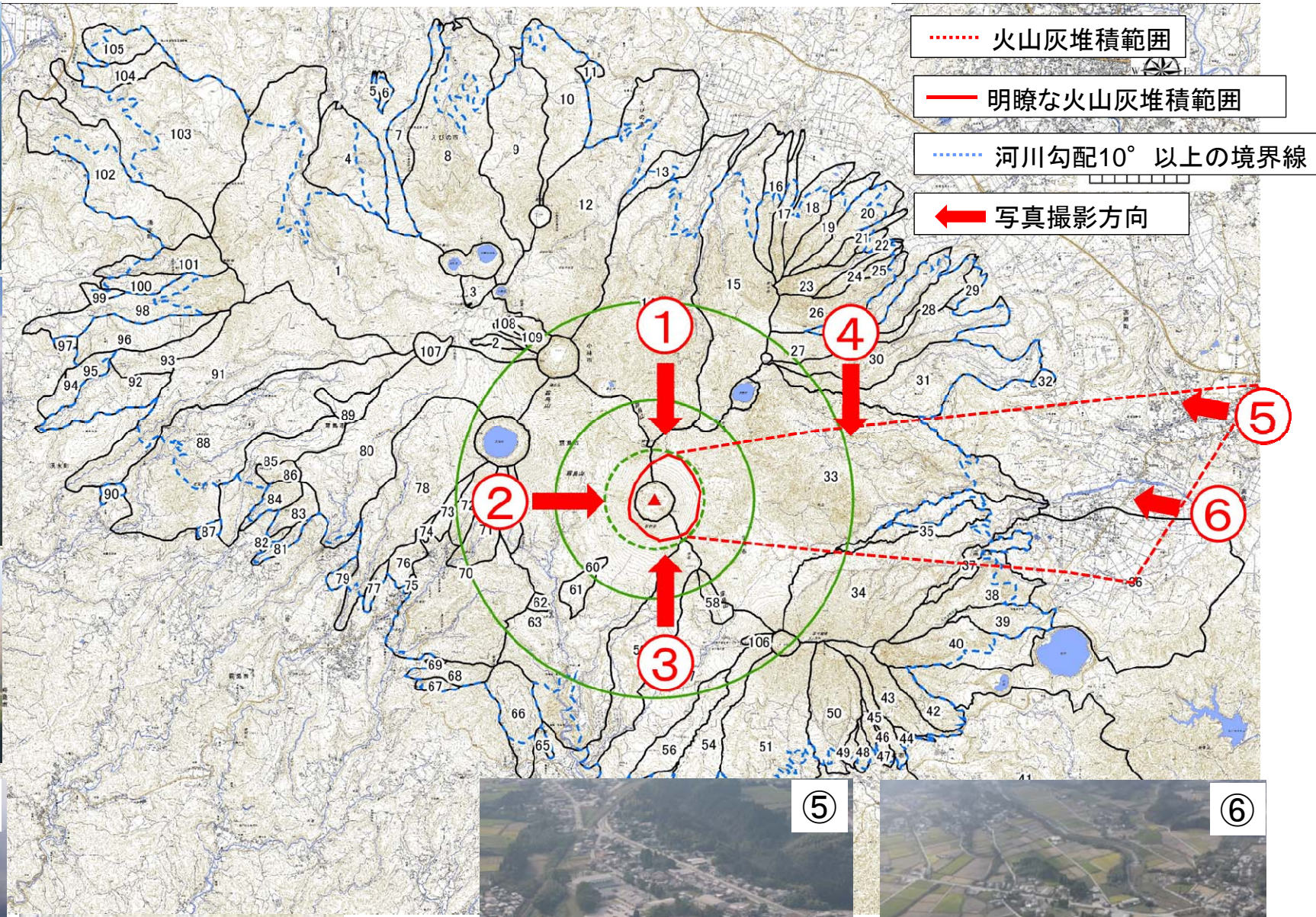
②



③



④



⑤



⑥

降灰量調査結果

噴火による火山灰の堆積状況を確認するため、10月11日から降灰量調査を実施。10月13日現在、火口東側(高原町)で3.0mm程度の堆積を確認したほか、小林市でも少量の降灰が確認できた。

